

今日のトピック インドの2016年度GDP見通し

新紙幣不足解消により消費は回復へ、景気拡大の流れは不変

ポイント1 7%程度の成長となろう

- 6日に政府が発表した、2017年3月期のGDP成長率見通し（速報値）は7.1%と、2016年3月期の7.6%から減速する見通しですが、市場予想（ブルームバーグ予想）の6.8%は上回りました。
- インドでは昨年11月の高額紙幣廃止・新紙幣交換による新紙幣不足の影響により、消費が弱含んでおり、そのために年間成長率が減速する見込みです。

【実質成長率見通し（前年比、%）】

項目	予測機関 (公表日付)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期			
			上期 (実績)	下期 (予測)		
GVA	RBI (2016/12/8)	7.2	7.1	7.2	6.9~7.1*	
	政府 (2017/1/6)	7.2	7.0	7.2	6.7	
GDP	政府 (2017/1/6)	7.6	7.1	7.2	7.0	
		民間消費	7.4	6.5	7.1	6.0
		政府消費	2.2	23.8	16.9	32.4

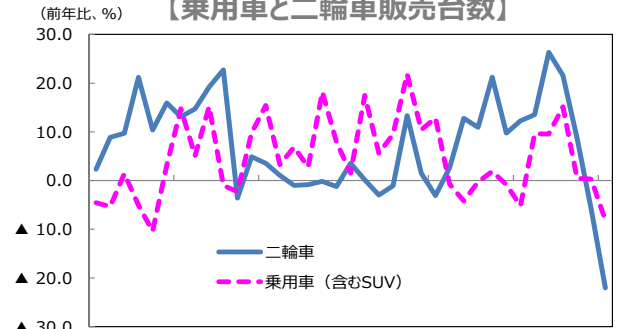
(注) *RBI（中央銀行）の2017年3月期の年間の予測値のレンジを7.05%～7.14%の範囲で変動させた場合の試算値。

(出所) インド統計局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 二輪車販売台数は下振れ

- 昨年12月の二輪車販売台数は、前年同月比▲22.0%と大幅に下振れました。また、乗用車販売台数も同▲1.4%と低迷しました。高額紙幣廃止・新紙幣交換による消費の下振れが耐久消費財消費に現れたものと考えられます。
- ただし、RBI（インド中央銀行）によると新紙幣の供給ペースは加速しており、遅くとも2017年1～3月中に市中に行きわたると見られます。

【乗用車と二輪車販売台数】



(注) データ期間は、2013年12月から2016年12月。

(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

新紙幣不足解消により消費は回復へ、景気拡大基調は不変

- このように足元、新紙幣の供給不足により消費が低迷していますが、新紙幣不足は解消に向かい、混乱は年度内に終息すると思われま。2017年4月の新年度以降は堅調な消費とインフレ低下基調に変化がない中、企業の投資回復などで8%の実質GDP成長率を見込みます。
- 旧紙幣の預金急増により、一時的に6.2%まで低下したインド10年国債利回りは、6.4%前後で安定しています。今後は徐々に経済活動が活発化すると見られますが、インフレが落ち着いていることから低金利が続くと予想されます。引き続き、インド株式と債券の魅力は続きそうです。

ここも チェック!

2016年12月26日 2016年の振り返りと2017年の見通し（インド）
2016年12月8日 インドの金融政策（2016年12月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。